

表紙によせて

大作 晃一

わたしの住む流山市で、  
 スダジイはそれほど多くはなくて、身近な樹木ではなかった。  
 子供の頃のスダジイの記憶といえば成田山。  
 ときどき祖父に連れられてお参りに。  
 駅から向かう道では鰻のたれの匂いが甘く漂い、  
 店の前では、うねうねと生きている鰻がつきつぎにさばかれていた。  
 成田山の入口には池があり、そこで亀をながめるのが好きだった。  
 お参りのあと、境内の裏の方に行くとスダジイが生えていて、  
 スダジイの実をひろい集めた。持ち帰って、炒って食べた。  
 栗のような風味があっておいしいけれど、  
 くねっとした歯応えが、少し残念だった。

おとなになってきのこを探すようになってからは、  
 スダジイは重要な樹木であることを知った。  
 大福山はスダジイが多く、お気に入りのきのこポイント。  
 5月、スダジイの花が咲く頃には、真っ赤なカンゾウタケを探した。  
 スダジイにはテングタケやイグチの仲間が多く発生する。  
 アシナガイグチやベニイグチなどに会うと興奮した。

表紙にあるチャオニテングタケは、泉自然公園の観察会で撮影したもの。  
 チャオニテングタケが実際に生えてる姿は、いまだに見たことがない。

シロテングタケ  
 [白天狗茸]

スダジイの殻斗  
 は堅果全体を包  
 み、のち3枚に割  
 れる。

カブラテングタケ  
 [蕪天狗茸]



オニフウセンタケ[鬼風船茸]

ベニイグチ[紅猪口]

チャオニテングタケ  
 [茶鬼天狗茸]

スダジイ[すだ椎]  
 福島県—新潟県  
 以南の暖帯に分  
 布する常緑樹。葉  
 の裏には茶色い  
 鱗毛がある。西日  
 本にみられるツ  
 ブラジイは、千葉  
 に自生しない。